

## 1. 総評

**(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**

生活指導の徹底が成され、けじめと明るさが両立した学校生活が営まれている。また、学校の校訓である「文武両道」が保護者・地域社会にも浸透し、学習活動や学校行事に熱心に取り組む姿勢が見られる。

## ◎ 成 果

経営方針に基づき、人権尊重の取組や学年・教科での学力向上を目指した。少人数習熟度別授業の改善を図り、区学力調査では学年別の数学通過率が37校中トップになり、3科の正答率も向上した。土曜スクールや学年教科コンテストで生徒を競わせる実践により、各種検定での合格者が増し、能力の底上げが図れた。

## ◎ 課 題

校訓の文武両道に鑑み、1 学力の伸長 2 到達度測定 3 健全育成と「組織で勝て」を実践する教職員組織の構築を進めている。ただ、基本的な生活習慣を徹底させるあまりに、不適切な指導に成りかねない言動を一扫し、サービス事故の無い学校づくりをすることが課題である。

**(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要****重点的な取組事項－1**

学力向上（生徒の学力の定着を図る）

- ・夏季休業中のサマースクールの実施及び各種コンテストの実施と、定期考査後再テストによる定着度測定、生徒一人ひとりに応じた補習活動（ESL）を実施し、少人数習熟度授業（数学）も一層の充実を図る。

**重点的な取組事項－2**

健全育成（生徒の心身の健全育成を図り、学校生活を充実・向上する）

- ・部活動全入制度の堅持、行事を通して鍛える協働の態度育成、講師を招聘したセーフティ教室の実施

**重点的な取組事項－3**

- ・小・中の連携（算数と数学、小学校で強まる英語指導の小中連携など、授業研究を中心に教科連携を深める）
- ・関係校連絡会と合同研修会等の実施、並びに児童・生徒の交流事業の充実

**(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性****重点的な取組事項－1**

- ・区学力調査において3年数学、2年英語などトップクラスの成績をおさめた。今後も数・英を中心とした授業改善を図る。数学は習熟度別授業のよさを生かし、一人一人のニーズに合わせた展開や復習方法の工夫など今期のよさを来年度に継続する。英語はオールイングリッシュの授業環境の継続発展に今後も努める。教科コンテストの結果公開や、ESLの個に応じた底上げ復習も成果を残し、次年度も総力を挙げ学力向上を目指す。

**重点的な取組事項－2**

- ・ビューティフルスクール調査より母校への誇りと帰属感をもち生徒が多数で、学校生活の秩序が確立している。
- ・サービス事故の発生は無かった。いじめ・不登校調査では、解決を図る取組が実践できた。また、区・都のSCを交えた特別支援委員会を立ち上げ、個に応じた対応や情報共有が進んだ。ただ、保護者対応は課題が残る。

**重点的な取組事項－3**

- ・交流する機会が深まり、学校状況の理解向上が図られるとともに教科連携が一層進んだ。これは年4回の指導案づくりと授業研究、統括指導主事の指導助言など指導室の支援を得て充実したものである。次年度は、英数以外の授業も研鑽する場を広げ、目標・指導・評価を一体化させた授業づくりを一層進める。
- ・生徒と児童の交流は計画どおり実施できた。小学校からも好評であり、継続した実施をしていく。

**(4) 保護者や地域へのメッセージ**

学校行事や部活動の実施に際して、PTA並びに開かれた学校づくり協議会及び九中後援会が絶大な応援態勢をとるとともに、物心両面で支援をいただいている。

部活動においては今年度も多くの部が都大会出場を果たし、関東大会等へ駒を進めることができた。保護者の絶大な協力と支援により強固な活動が築かれており、今後とも一層のご理解ご支援をお願いしたい。

## 2. 平成27年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る＞

### 重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
基礎的基本的な事項・内容の定着	区学力調査における2,3年生の平均通過率65%	64.4ポイントと0.6ポイント達成できなかったが、正答率については1.7ポイント上昇した。	プラス面をいかし、学校としての組織的な取組や、個人の習熟度に応じた取組みを一層改善する。	○	
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学力定着状況の確認・対応	四則計算や図形など小学校4年生程度の学力未定着者をなくす。	新入生テスト、東京ベシックドリル、月1回程度の確認テストでつまずきを確認し、補習指導を行う。	四則計算未定着生徒には、個別補習や習熟度別授業で対応したが、その場では理解できるものの理解の継続が弱い。	個別のつまずきをより明確にし、補習での反復より克服を図る。	△
個に応じた指導	年間28日間の放課後特別補習授業(ESL)、長期休業中に5日間の補充教室を実施	定期考査前後7日間の放課後に、教員全員で指名生徒の弱点克服のESLを実施。夏季休業中5日間の補充教室を実施、数学少人数習熟度別授業の工夫改善。	ESL、夏季補充教室とも完全実施できた。3学年は都立受験直前対策として全員を対象に25分間の7時間目授業を実施した。	補充教室、指名個別補習ESL、数学熟度別授業の活用等により区学力調査などで向上が見られる。	○
学力向上に係わる校内研修	学力向上に関連する研修を年6回以上実施、授業研究を2回以上実施。教科指導専門員の活用。	校内研修は生徒指導2回、授業研究を2回実施した。学力向上研修は、区統括指導主事より4回実施した。また、教科指導専門員による若手教員育成。	教育指導室の指導講評より、本校の成果と課題、区施策との一体化等を理解深まる。教科指導専門員の活用により、若手教員が育成され、足立スタンダードが定着。	次年度も学力向上を校内研修、授業研究、教科指導専門員(区施策)の活用を通して充実させていく。	○

### 重点的な取組事項－2 健全育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
学校生活の充実・向上	生徒の学校生活充実度70%	「満足している、やや満足している」の合計は95%であった。	「やや不満です、不満です」の回答も5%あり、一層、充実改善が必要である。	◎	
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習活動への意欲の向上(授業や家庭学習)	生徒学校生活調査における充実率65%以上	到達度測定の結果や、生徒学校生活調査における回答より、充実率65%以上かどうかを確認する。	「努力している」「少し努力している」の回答が80%あるが、努力が必要の回答が、20%もある	学習態度は良好だが、「役に立つ」意識を持たせ意欲向上を図る。	△
部活動への積極的参加	生徒学校生活調査における充実率65%以上	部活動全入制度を堅持し、鍛錬より技術や社会性を身に付けさせる。	86%の生徒が厳しさの中でも活動を大きく評価している。	クラブチームに所属する生徒の居場所が必要である。	○
学校行事の主体的な運営参加	生徒学校生活調査における充実率65%以上	委員や係のふさわしい立場や役割を果たせるよう、生徒に出来ることはやらせる。キャリアを事後アンケート調査で確認する。	宿泊行事(校外学習行事)、運動会、文化祭をとおして様々な立場や役割を果たし、協働意識や社会性を身に付けてきた。	係活動などで、自分の役割を果たすことの喜びを作文に残す生徒が数多くなってきた。	○

### 重点的な取組事項－3 小中連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連携小学校と教科連携の研究を進め、学力向上を図る方策を見出す。	授業研究を行い、目標・指導・評価の規準や一体化が図れたかどうかを評価する。	小中連携の推進委員会、協議会、授業研究（4回）を含めて10回にわたる教科連携研究を進め、成果と課題を考察し冊子にまとめた。	義務教育9年間を見据えた教科連携は研究不足であったため、今回の共同研究は非常に意義深く、来年度にも継続していきたい。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
推進委員会、全体会、分科会の活性化	教科連携の中身が深まるよう、成果と課題を分析して連携事業を企画・立案・推進	推進委員会を4回、全体会を2回、分科会を4回、授業研究を4回実施した。	教科連携が深まり、特に授業研究では、教育指導室の指導・講評より成果と課題が明確になった。また、1年間の研究実践は研究冊子にまとめた。	関係4校の連携から、2校連携に比重がかかる中、4校の連携のあり方を模索。	△
中1ギャップの緩和、交流事業の実施	三小学校の児童の九中入学者増	小学校6年生の中学校授業・部活動体験	関係3小学校児童を招き、実施することができた。	中1ギャップの緩和	○
	中学生による小学校の事業への支援・参加	夏季休業日における小学校補充学習への参加（教員補助、支援活動）	関係3小学校の夏季休業日補充事業に部活動単位で参加できた。	お互いのキャリア教育ともなり、継続希望が出されている。	○

### 3. 学校活動全般について

<p>次の3点で再度、教員指導に当たっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人権感覚を持ち、生徒への指導は、「やさしく（分かる言葉で）厳しく（分かる・できるまで）」を継続</li> <li>2 学校運営は、「組織」で対応</li> <li>3 地域との連携を図るため、生徒の交流や行事への積極的参加の体制作り</li> </ol>
--